



獨逸ノ全獨逸主義ト世界政策(2)

津村, 秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 2(3):327-362

(Issue Date)

1907-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051120>



獨逸ノ全獨逸主義ト世界政策（其二）

神戸高等商業學校教授

津 村 秀 松

（五）

「全獨逸主義」Pan-Germanism ト共ニ内外相應シテ以テ獨逸ノ膨脹政策ヲ構成スルモノヲ獨逸ノ「世界政策」Welt-politik ト爲ス

前ニ述タルカ如ク、元ト獨逸ハ殖民地ヲ有セス、又有セムトモセス、偶々之レカ獲得ヲ建議スルモノアルモ之ヲ排斥シ、時ニ保護ノ請願ヲ爲スモノアリシモ之ヲ峻拒シ、隣強ノ眼ヲ外國ニ轉スルノ好機ニ乘シテ、専ラ内政ヲ整理シ、帝國ノ基礎ヲ堅ムルニ汲々トシ、又他ヲ顧ムルノ余力ヲ剩サバリシカ、新帝、政治ヲ親スル頃ヨリ、其體度一變スルニ至レリ。今其所以ヲ尋ヌルニ其後獨逸人口増加ノ勢益々急ニシテ、Schmoller ノ計算ニヨレハ獨逸人口ハ一九六五年ニ至リ一億〇四百萬人ニ達スベク、Hübner-Schleiden ノ計算ニヨレハ一億五千萬人ニ達スベク、更ニ獨逸通ヲ以テ有名ナル佛國經濟學者 Leroy Beaulieu ノ計算ニヨレハ、一世紀ノ後チニハ二億人ニ達スベ

シト。何レニノモ方今獨逸人口増加ノ割合ハ每年平均人口千人ニ付キ約十四人前後ノ間ニ在リ、假リニ此ノ割合ニテ進ムトスレハ、五十年毎ニ獨逸人口ハ加倍スヘキ勘定ナリ。之ニ對シ、英吉利ノ人口ノ増加ハ千人ニ付キ十一人半ノ割合ナレハ約五十八年ヲ要シ、澳太利ハ十人半ノ割合ナレハ約六十五年ヲ要シ、我日本ハ十人ノ割合ナレハ約七十七年ヲ要シ、而シテ佛蘭西ハ六ノ割合ナレハ約八百五十年ヲ要ス。サレハ最近獨逸人口増加ノ勢ハ寔ニ古今未曾有、東西無比トモ稱スベキモノナルニ搗テ、加ヘテ一八五〇年ヨリ一九〇年ニ至ル十九世紀ノ後半期間ノ獨逸國民經濟ノ發達ハ、是亦未曾有ノ盛況ニシ、此間ニ於テ獨逸ノ外國貿易ハ七倍シ、獨逸ノ產鐵額ハ六十倍シ、獨逸ノ棉花消費額ハ二十倍シ、獨逸ノ貯蓄銀行ノ預金高ハ六十倍シ(其結果獨逸人一人ニ付キ英吉利人三人前ノ貯金ヲ有スルコトナレリ)、四十年代ニハ英吉利人ノ賃銀一週十八志ニシテ當時獨逸人ノ賃銀ハ其四分ノ一ニ過キサリシニ、今ヤ略ホ相等シキコト、ナリ、五十年代ニハ獨逸ハ借金國 Debtor Country ナリシニ、今ヤ一躍シテ貸金國 Creditor Country トナリ、一八九二年乃至九八年間ノ獨逸政府ノ調査ニヨレハ、諸外國ニ對スル貸付金無慮十億磅ニ達シ、其利子年々六

千萬磅ニ上ルトイフ。此ノ如クシテ内ニ人滿チ、金滿チ、財滿チ、力滿ツルニ及テハ、勢
ヒ外ニ向テ溢レサルヲ得ス、又溢レシメサルヲ得サルナリ。而シテ此ノ如キ國勢充
溢ヨリ生スル第一ノ影響ハ、先ツ移民ノ方面ニ現ハレ、一八八一年ニ於ケル獨逸ノ
海外移民數ハ實ニ二十二萬人ニシテ、當時ノ人口ノ約四分八厘ニ當ル。而モ其翌年
又其翌々年モ略ホ同數ノ移民アリタレハ、一八八一年乃至八三年ニ亙ル三ケ年ニ
於テ、獨逸ハ約六十萬人ノ國民ヲ失ヒ、其多クハ北米合衆國ノ奪フ所トナリキ。

元ト移民ノ事タル、利害相半スルモノニシテ、今其ノ一二顯著ナルモノヲ舉ケム
ニ、先ツ第一移民ノ利益トスル所ハ、(一)本國ニ於ケル人口過剩ノ弊ヲ防キ、(二)本國ノ
言語、風俗、人情、嗜好、勢力ヲ廣ク世界ニ傳播シテ以テ本國ノ產品ノ販路ヲ擴張シ、本
國ノ勢力ノ範圍ヲ擴張シ、(三)本國ノ窮民ヲ海外ニ移シテ以テ年々巨額ノ出稼金ノ
回送ヲ受ケ、(四)移民増加シ、自國ノ勢力増加ノ曉ニハ、終ニ領土擴張ノ結果トモナル
可シ。サレト此ノ如キ利益ノ半面ニハ、損害ノ半面ノ常ニ隨伴スルモノアルヲ記憶
セサル可カラス。即チ、(一)遠ク故國ヲ離レテ海外ニ出稼シ若クハ移住セムトスルモ
ノハ、多ク心身共ニ強健ニシテ教育ヲ終ヘ勞働ニ堪ヘ得ル壯年者、即チ俗ニ所謂「働

キ盛リノ人「ナルベケレハ、爲メニ本國ハ是迄ノ養育費ヲ損シ、教育費ヲ損シ、徵兵制度ノ施行ニ害アルノミナラズ、本國ノ人口ノ内容ハ、老幼年者婦女子割多クシテ、壯年者其割ニ少ク、厄介者多クシテ働ク者少ク、結局相手移住國ノ生産力ヲ増加スル丈、本國ノ生産力ヲ減殺スルコト、ナリヌ可シ。」(二)又斯クテ移住ノ途一度開カハ、不健全者ハ本國ニ殘留シ、健全者ノミ海外ニ走ルヘケレハ、移民多レハ多キ丈、本國人民ノ財政上竝ニ經濟上ノ負擔ヲ増加スベシ。

以上論シ來ル所ニヨレハ、移民ハ必シモ欣フ可キ現象ニアラサルコトヲ知ルカ上ニ、移民増加ノ結果、其地ニ於ケル本國ノ勢力ヲ嵩メ、遂ニ之ヲ本國ノ殖民地若クハ屬國、保護國トナシ得ルニ至ルヘキハ、相手カ未開國ニシテ而モ未タ何レノ強國ニモ屬セサル小弱國タル場合ニ限ル事ナルニ、今翻テ獨逸國民ノ移住先キヲ見ルニ、主トシテ北米合衆國トイフ本國ニモ優ル可キ一大強國ナレハ、之ニ移民ヲ送ルハ敵ニ糧ヲ借スニ等シカルベシ。サレハ獨逸政治家竝ニ學者ハ夙ニ此ノ點ニ注目シテ、年々二十餘萬ノ人口ヲ其未來ノ大敵、少クトモ將來ノ競爭者ノ爲メニ奪ル、ヲ坐視スルニ忍ヒス。獨逸ハ宜シク自己ノ殖民地ヲ獲得シテ、之ニ剩餘ノ人口ヲ移

二、	カメルン	(一八八四年)	四五〇〇〇	三五〇〇	×二二〇	×一、五〇	九四六	七、三九	五、〇八	二四	五	四
三、	トーガー	(一八八四年)	八七、〇〇	一五〇〇	七	一五〇	(一九〇四年)	六八、九八	三五、一	五、二六六	二六(布散中)	三
四、	西南亞弗利加	(一八八四年—九〇年)	八三、〇〇〇	二〇〇	×八三	—	七九、三	三四四	八八、三四〇	{三八二 五六八(布散中)}	三四	四
五、	ニユー・ギニー	(一八八五—八六年)	二四〇、〇〇〇	三八〇	七	二六二	二二五	九六三	一二六	—	五	—
六、	新ギニア(オーストラリアナ、 Occ. in West-Karolinen u. Marianen)	(一八九九年)	三〇七六	三六	三	七五	三七六七	一九七八	三四五	—	三	—
七、	マーシャル・ Inseln	(一八八六年)	四〇五	一五	—	一三	四六	五三	—	—	一	—
八、	サモア	(一八九九年)	二五八八	三三	二	六〇	(一九〇四年)	一六七五	六六	—	四	—
九、	膠洲灣	(一九七年)	五〇一	三	三三七四	八四	(一九三—四四年)	一四七九四	一五、二九六	四三六	五	一
合計			二六五、三六四	一二、三七〇	四五五四	三三八五	七九、二四	四二、二三	二五、五五	{九七一 九五三(布散中)}	八	七

(備考) ×警察官ヲ除ケル數ナリ、

×土人反亂鎮定ノ爲メ此常備兵以外ニ、目下一萬三千九百四十五人ノ獨逸兵駐屯ス、

由是觀之、今日獨逸殖民政策ノ結果ト稱スヘキハ、本國ニ約五倍ノ新領土ヲ獲タルニアレトモ、其十中ノ九ハ亞弗利加ニ於ケル不毛ノ原野ニシテ、他ハ比較的高價ヲ以テ西班牙ヨリ買求メタル南太平洋上ノ彈丸黒子ノ群小島ノミ。サレハ其人口ノ如キモ合計千二百三十萬人ニ過キスシテ、一方「キロメートル」内ニ平均五人弱、一方「マイル」内ニ平均十二人ノ割合ニ過キス。之ヲ佛蘭西ノ殖民地ノ一方「マイル」内ニ

平均十四人ニ比スルモ及ハス、英吉利ノ殖民地ノ平均三十人、米國ノ殖民地ノ平均六十六人、臺灣ノ平均二百三十四人ニ比スル時ハ大ニ劣ルモノニシテ、全世界ノ一方、マイル内ノ平均人口密度二十九人ニ比スルモ其半ニ達セサル、人口頗ル稀薄ノ土地ナリ。更ニ是等獨逸殖民地ニ於ケル獨逸人ニ至テハ驚ク可キ程ノ小數ニシテ、通計五千七百人ニ過キサリナリ。サレハ産業ノ如キモ太タ振ハス、一九〇三年度ニ於ケル此等諸殖民地ノ貿易高ノ合計ハ、輸入七千九百一十一萬四千馬克、輸出四千百十二萬二千馬克、總計一億二千二十三萬六千馬克ニシテ、約六千萬圓ニ過キス、之レ明治三十七年度ノ臺灣ノ外國貿易額(日本トノ貿易額ヲモ含ム)四千六百萬圓ニ比スルニ大差ヲ見ス。然ルニ此等殖民地ニ要スル政費ニ至テハ、一九〇五年度ニ於テ一億二千五百二十五萬五千馬克ニシテ、貿易額ヲ超過スルコト、約五百萬馬克ニ上ル。而シテ獨逸カ是等殖民地ヲ領有シテヨリ多クハ二十年前後ヲ經過シタルモノナルカ、此間獨逸カ其殖民地ノ爲メニ費シタル諸經費ヲ列舉スレハ、

外務省殖民地部行政費

千馬克
六、七八〇、

膠州灣中央行政費

千馬克
四〇〇、

外務省殖民地部臨時費

一八六、〇〇〇、

膠州灣經費

九〇、〇〇〇、

東亞遠征費

二七〇、〇〇〇、

西南亞弗利加叛徒鎮定費

一八二、八四〇、

南洋諸島買入費

一六、七五〇、

合

計

七五二、七七〇、

此外本國殖民地間連絡航路補助費、海軍警備費モ亦莫大ナレハ、獨逸カ殖民政策開始以來二十年間ニ費シタル國費實ニ約八億馬克、即チ四億圓ニモ達ス可シ。而モ此間獨逸本國ト其諸殖民地トノ間ノ貿易狀態如何トイフニ、大略左ノ如キモノナリ。

一八八五——一八九〇年、

三千萬馬克、

一八九一——一九〇四年、

二億八千二百萬馬克、

總計三億二千萬馬克(一億六千萬圓)ニ上ラス。是レ日本ト臺灣トノ八年間ノ貿易高ニ比敵ス。其純益ノ如キ僅少ト云フノ外無ケム。斯クテ本國ノ負擔ノミ徒ラニ多クシテ其發達ノ遅々タルヲ驚クノ外無ク、其到底收支相償ハサル不毛ノ地タルコト、更ニ疑ヲ容レサル所ナル可シ。是ヲ以テ嘗テ *Captive* 内閣ノ頃、一時西南亞弗利加ヲ放擲セムトノ議起リ、其後更ニ奮勵一番、大ニ之レカ發達ヲ勉メ、外國資本ノ放下ヲ獎勵シ、殊ニ其平生歡ハサル英吉利人ノ諸會社ニ對シテ迄モ諸種ノ特權ヲ附與シテ以テ盛ニ企業ヲ勸誘シタレトモ其效少ク、*Hohenlohe* 内閣ニ至リ、是等殖民地ノ財政上ノ獨立ヲ企圖セシモ今日迄其實舉ラス。一九〇〇年 *Billow* 太宰相トナルヤ、更

ニ大ニ本國ノ資本ノ放下ヲ獎勵シ、本國民ノ移住ヲ勸誘セシモ、共ニ全然失敗ニ了レリ。殊ニ最近ニ至リ西南亞弗利加ニ叛徒起リタレハ、獨逸政府ハ速カニ之ヲ鎮定セムトテ、多數ノ軍隊ヲ送り、巨額ノ軍費ヲ投シ其額已ニ一億八千萬馬克ヲ計上スルニモ拘ハラズ、猶其平定ノ見込立ズ。サレハ本年度ニ於テ同殖民地ニ對シ千三百萬餘馬克ノ總支出ノ外更ニ追加豫算トシテ三千萬馬克ノ要求ヲ爲スノ止ヲ得サルニ至リタレトモ、時恰モ獨逸殖民地ニ於ケル官吏ノ瀆職汚行ノ外ニ土人虐殺ノ風聞サヘ傳ハリタレハ、平生人道ヲ云々スル僧侶黨(中央黨)ハ、常ニ獨逸ノ「世界政策」ニ反對スル社會民主黨ト相合シ、百六十八ニ對スル百七十八ノ多數ヲ以テ之ヲ否決シ、議會ハ爲メニ舊臘十二月十一日遂ニ解散ノ不幸ヲ見ルニ至リ、總選舉ノ結果、反對黨ノ大敗ニ終リタレトモ、現殖民政策ニ對スル不滿ノ聲ト社會民主黨ノ反抗ノ勢ハ、此後尙ホ久シク絶ヘスシテ、常ニ獨逸ノ「世界政策」ノ遂行ヲ妨クルナルベシ

(六)

サレト獨逸ノ現狀ハ、之ヲ人口増加ノ勢急ナル上ヨリ言フモ、之ヲ資力充實ノ勢盛ナル上ヨリ言フモ、之レヲ農業日ニ衰ヘテ内ニ食物竝ニ原料ノ不足ノ勢益々迫

ル上ヨリ推スモ、之ヲ商工業月ニ榮ヘテ外ニ販路ノ縮小ノ勢愈々急ナル上ヨリ推スモ、之ヲ彼ノ世界ノ三大國ニ拮抗シテ其國命ヲ將來ニ維持スルノ必要上ヨリ論スルモ、將又新興ノ野心鬱勃タルカイゼル、ウキルヘルム二世ノ體度ヨリ論スルモ、獨逸ハ到底已得ノ舊殖民地ヲ放擲セス、更ニ恰好ノ新殖民地ヲ獲得シテ以テ、大ニ其「世界政策」ノ發揚ヲ計リ、遂ニ “*Unsere Zukunft liegt auf dem Wasser*” ノ宣言ヲ實行セサレハ止サルベキハ、識者ヲ俟テ後チ知ル可キニアラサルベシ。

サハ云ヘ、獨逸國民カ其過去ノ殖民政策ノ結果ニ失望シタルハ事實ニシテ、從テ此後彼等ノ期待スル所ハ、熱帶ノ殖民地ニ非ス、洋上ノ孤島ニ非ス、實ニ溫帶ノ好殖民地ニシテ、以テ白人種ノ移住ニ適スヘク、以テ過剩ノ資本ヲ投ス可ク、依テ年々缺乏ノ急ニ迫レル穀物ノ(特ニ小麥、裸麥)ノ耕作ニ適ス可ク、依テ歲々増加ノ必要ヲ見ル原料(特ニ棉花、石炭)ノ供給ヲ仰ク可キ、前途有望ノ新領土ニ在ルナリ。苟モ此ノ如キ恰好ノ邦土ニシテ彼等ノ目ニ映センカ、彼等ハ如何ナル代價ヲ支拂フモ辭セス、如何ナル障害起ルモ臆セス、何レノ地、何レノ時ヲ問ハス、之ヲ獲得セスムハ止サルノ慨アルハ、方今獨逸上下ヲ通シテノ現勢ナリトス。然レトモ今日ノ世界ハ最早ヤ

昔日ノ世界ニアラス。世界到ル處皆夫々所有主アリテ餘地ヲ存セス。サレハ獨逸ニシテ今更世界ニ恰好ノ殖民地ヲ求メムト欲セハ、要スルニ左ノ三策ニ出ルノ外無ケム。

(第一)現存ノ小弱國ノ他強國ノ爲メニ分割若クハ掠奪セラル、ヲ防クコト。

(第二)斯クテ後チ現存ノ小弱國中、其最モ有望ナルモノヨリ掠奪ヲ始ムルコト。

(第三)殖民母國中ノ小弱國ニ對シ合併ヲ強求スルコト。

嘗テ南阿戰爭起ルヤ、忽チ獨逸ニ *Anti-British Movement* 發シ、嘗テ西米戰爭起ルヤ、忽チ獨逸ニ *Anti-American Movement* 發生セルハ、卽チ獨逸カ第一策ヲ奉スル所以ニシテ、近クモロツコ事件生スルヤ、獨逸ハ急卒之ニ干涉ヲ試ミタルモ亦此レカ爲メナリ。次ニ獨逸ノ立場ヨリ論シテ比較的掠奪ニ有望ニ且ツ前途開發ノ見込十分ナルハ、西半球ニアツテハブラジル、アルゼンチン、東半球ニアツテハ小亞細亞ノ地ニシテ、其ニ獨逸カ第二策ヲ試ミムトスル目的地ナリトス。

獨逸人カ初メテブラジルニ移住スルニ至リタルハ、今ヲ去ル約八十年前卽チ一八二五年ノ昔ナレトモ、其大ニ力ヲ南米殊ニブラジル、アルゼンチン經營ニ濫クニ

至リタルハ、漸ク二三十年前ノ事ナリトス。サレハ其着手ノ年度ニ於テ、英吉利ニ後レ佛蘭西ニ後レ、米國ニモ後レタレトモ、其成功ノ程度ニ於テ、遙カニ米佛ヲ凌キ、漸ク英ト比肩スルモノアルニ至レリ。即チ

南米ヨリノ輸入貿易累年表

獨逸

英吉利

米國

佛蘭西

一八九〇年	三〇〇、一	二六八、三	三五五、三	三三四、〇
一八九一年	三七四、八	二七四、八	四七三、四	三二五、六
一八九二年	三三四、一	二九八、三	六一二、〇	二九六、七
一八九三年	三四九、八	三二〇、六	四〇三、一	二七、七
一八九四年	三三二、五	三二八、五	三九八、二	二七三、四
一八九五年	三五三、八	三七八、九	四五六、九	三一七、〇
一八九六年	三二八、〇	三八八、〇	四三八、〇	三五〇、三
一八九七年	三二七、八	三〇九、七	四三〇、九	三一二、三
一八九八年	三六二、四	三八五、六	三六七、四	三五九、一
一八九九年	四二二、四	四三八、二	三四一、五	三九七、四
一九〇〇年	四八九、六	五三四、七	三七一、七	三九六、九
一九〇一年	四六八、五	五〇八、六	四三七、一	三五二、三

南米ニ對スル輸出貿易累年表

獨逸

英吉利

米國

佛蘭西

一八九〇年	一三九、一	五一七、三	一四七八	二三六、六
-------	-------	-------	------	-------

一八九一年	一二二、九	四〇七、四	一二九、七	九二、〇
一八九二年	一五三、四	四五〇、九	一二六、〇	一五六、四
一八九三年	一六四、八	四二八、一	一二四、〇	一六三、六
一八九四年	一三三、〇	三八七、〇	一二五、六	一四〇、〇
一八九五年	一八一、五	四二九、八	一三〇、一	一三七、三
一八九六年	一七一、九	四四〇、八	一三九、九	一五二、六
一八九七年	一四三、五	三四六、一	一二九、三	一三四、一
一八九八年	一三八、二	三六六、七	一三一、一	一一七、四
一八九九年	一六〇、一	三七六、四	一三九、〇	一二九、一
一九〇〇年	一八八、三	四三三、九	一五二、四	一〇四、三
一九〇一年	一六二、九	三八九、〇	一七四、七	一〇八、二

由是觀之、南米ヨリノ輸入貿易ニ於テハ、獨逸ハ米佛ヲ壓シ、英ト略ホ比肩ス可ク、南
 米ニ對スル輸出貿易ニ於テ、佛ニ勝リ米ニ少シク劣ル。サレト同時ニ顧慮セサルベ
 カラサル事アリ。夫ハ茲ニ掲ケタル獨逸ノ輸出入貿易高ハ其實際ノ貿易高ヲ現ハ
 スモノニ非サル事はレナリ。其故如何トイフニ、元ト獨逸ノ輸出入貿易ハロツテ
 ダム竝ニアントワープヲ經由スルモノ甚タ多ク、而モ是等ノ商港ヲ經由スルモノ
 ハ和蘭若クハ白耳義國ノ輸出入貿易トシテ計算セラル、ヲ以テナリ。サレハ實際
 ニ於ケル獨逸ノ南米貿易ハ已ニ列強中第一位ニ居ルヤモ未タ知ルヘカラサルモ

ノアリト謂フ可シ。

次ニ南米ニ於ケル海運業ヲ見ルニ、南米ノ西海岸ニ於テハ今日ト雖モ尙ホ米佛船舶ノ隻影ヲ見ス、其東海岸ニ於テハ獨逸船舶ハ遙カニ米佛船舶ヲ越ヘ、獨リ英吉利船舶ニ劣ルノミナレトモ、尙ホ沿岸航海ヲ除ケハ、獨逸ハ南米海運ノ約三分ノ一ヲ占メ、獨逸汽船會社ハ一八九〇——一九〇〇年間平均年一割一分ノ好配當ヲ見ルニ至レリ。

更ニ南米ニ於ケル獨逸ノ資本放下ノ狀況ヲ檢スルニ其頗ル巨額ナルニ一驚スベシ、今ヲ去ル數年前、獨逸政府ハ海軍擴張案ヲ議會ニ提出スルニ際シ、參考トシテ一八九七年乃至一八九八年ノ間ニ於ケル獨逸ノ海外ニ於ケル放資額ヲ調査報告セリ。其報告書ヲ見ルニ左ノ如キモノアリ。

獨逸ノ海外ニ於ケル放資額表 (一八九七—一八九八年調査)

國名	金額	國名	金額
南亞米利加	11,000,000,000 マルク	中央亞米利加	750,000,000,000 マルク
米國及加奈陀	1,000,000,000,000	土耳古	500,000,000,000
印度	100,000,000,000	東亞	300,000,000,000

亞弗利加
其他諸國

一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、

濠州

七五〇、〇〇〇、〇〇〇、

總計

七、四〇〇、〇〇〇、〇〇〇、

此一々年利子

四〇〇、〇〇〇、〇〇〇、

右ハ單ニ獨逸ノ海外諸國ニ於ケル放資額ニ止レハ、其大陸諸國殊ニ露西亞ニ於ケル巨額ノ放資等ハ此以外ナレトモ、尙ホ且ツ其高七拾四億「マルク」(約我カ參拾七億圓)其利子年々四億「マルク」(約我カ貳億圓)ニ上ル。更ニ此表ヲ見ルニ、是等多數ノ海外放資國中ニ於テ、獨逸ノ最モ多ク資本ヲ注入セル地ハ即チ南米ニシテ、其ノ高貳拾億「マルク」(約我カ拾億圓)ニ達ス。此内ブラジルニ放下セル所五億貳千萬「マルク」ニシテ、之ヲ佛蘭西ノ同國ニ於ケル放資高五億六千萬「マルク」ニ比スレハ、尙ホ少シク劣ルアルヲ見ル可ク、又英吉利ノ放資額ニモ及バスト雖モ、佛蘭西ノ資本ハ其後日ニ減退スルノ傾アルニ反シテ、獨逸ノ資本ハ多々益々増加スルノ狀アルハ大ニ注意スヘキ現象ナリ。

斯テ近年南米ニ於ケル獨逸ノ放資高大ニ増加スルヨリ、南米ニ於ケル獨逸ノ銀行業モ亦從テ近年著シキ活動ヲ見ルニ至レリ。即チ南米ニ於ケル獨逸ノ銀行ハ彼ノ獨逸ブラジル銀行 Die Brasilianische Bank für Deutschland (資本金千萬「マルク」ニシテ、伯

林ノ割引銀行會社トハンブルグノ北獨逸銀行 *Norddeutsche Bank* トノ共有物ナリ)ヲ第一トシテ此外ニ尙ホ二銀行アルカ上ニ、更ニ本國ニ於ケル最大銀行タル獨逸銀行 *Deutsche Bank* ト割引銀行會社 *Direktion der Diskontogesellschaft* トハ、其南米ニ於ケル利益範圍ヲ妥協シテ、前者ハベルチリー、アルゼンチンヲ、後者ハベチジユエラ、ブラジル、各々其利益範圍トシテ守リ、互ニ相手ノ範圍ニ支店ヲ設ケス、互ニ兄弟牆ニ相聞クノ愚ヲ避クルノ方針ニ出タリシカハ、其業務ノ發達ノ跡頗ル著シキモノアリトス。

サレト今日獨逸人ノ移住ノ最モ盛ナルハ、ブラジル及ビアルゼンチンニシテ、殊ニブラジルノ南方三洲 (1) *Santa Catharina*, (2) *Paraná*, (3) *Rio Grande do Sul* ノ地ハ最モ獨逸人ノ矚目スル所ニシテ、其大サハ略ホ獨逸本國ニ等シキニ、其ノ人口ハ漸ク *Tactus* 時代ノ獨逸人口ニ當ルニ過キスシテ約百五十萬人ト稱セラル。而モ是等ノ地方ハブラジル中最モ氣候溫和ニシテ、穀物ノ耕作ニ適スレハ獨逸ニ取ツテ此上モ無キ恰好ノ殖民地ナリ。サレハ獨逸人ハ早クヨリ此地ニ移住シ、現今約方八千哩ノ地(ザクセン國ト略ホ同一面積)ヲ購入シ、四十萬人ノ獨逸人ヲ移植シ已ニ國籍ヲ變スル

モ嘗テ獨逸性ヲ失ハス、茲ニ純乎タル一大新獨逸國ヲ建設スルニ至レリ。サレハ現今ブラジルニ於ケル獨逸人ノ勢力ハ頗ル強大ナルモノニシテ、中央ブラジルニ於ケル珈琲取引、北部ブラジルニ於ケル護謨取引迄モ略ホ其一手ニ掌握スルニ至リ、ブラジルノ外債ノ約三分ノ二ハ現ニ獨逸人ノ所有ニ歸シ居ルト傳フ。

以上述タル所ハ南米ニ於ケル獨逸ノ殖民的經營ノ一端ニ過キサレトモ尙ホ且ツ近年獨逸カ南米殊ニブラジル、アルゼンチンノ良土ニ矚目スル所深且大ナルモノアルヲ觀取シ得可ク、貿易ニ、海運ニ、開墾ニ、銀行ニ、巨額ノ資本ヲ投シテ惜マサルコト、以上ノ如キモノアルニ於テハ、獨逸ノ野心ノ那邊ニ存スルカハ識者ヲ俟テ後チ知ル可ギニアラス此儘ニシテ獨逸ノ爲ス所ニ放任セハ、亞米利加ハ決シテ亞米利加人ノ亞米利加ニ非ス。新獨逸國ノ所々ニ勃興ス可キハ火ヲ觀ルヨリモ明ナルモノアリ。於是乎、建國以來高クモンロー主義ヲ標榜シテ、常ニ全亞米利加ノ保護者ヲ以テ自カラ任スル北米合衆國ハ心頗ル平ナラス。幸ニ政治上歐洲ノ干涉ヲ亞米利加ニ許サマルヲ得ルニ至リタレトモ、經濟上ニ於ケル歐洲ノ勢力ニシテ亞米利加ニ扶植セラル、コト現今ノ如ク盛シナルニ於テハ、遂ニ再ヒ政治上ニ於テモ歐

洲ノ干涉ヲ招クニ至ル無キヲ保シ難シ、現ニ獨逸人ハモンロー主義ニ對シテ揚言シテ曰ク、唯夫レ實利ノアル所卽チ權利ノ存スル所也。是レヲ以テ南米ニ於ケル實際上物質的利益ヲ有スルモノハ、何時ニテモ該利益ヲ保護スルノ限度ニ於テ干涉ヲ試ムルノ權利ヲ有スベシ。若シ米國ニシテ飽迄モンロー主義ヲ抱持シ主張セムト欲セハ、須ラク先ツ南米ニ於ケル歐洲ノ利益ヲ保護シ安固ナラシムルノ責任ヲ自カラ負フノ一大覺悟アルヲ要スト。斯クテ南米ニ於ケル獨逸ノ利害ノ衝突ハ歲ト共ニ漸ク顯著ナラムトスルハ、昨今ノ勢ナレトモ、獨逸ハ米國トノ一大戰爭ヲ賭シテ迄モ其野心ヲ遂行セムトスルノ覺悟アルヤ否ヤ、吾人ハ大ニ疑ハサルヲ得ス。從テ其南米ニ於ケル世界政策ノ遂ニ豫期ノ效果ヲ奏スルニ至ルハ、近キ將來ノ事ニアラサル可シ。

(八)

今ヲ去ル十數年前、小亞細亞各地ヨリ波斯灣ニ互テ、世界ノ一大富源アルコトヲ發見シ、之ニ向テ初メテ手ヲ着ケ、一時其計畫挫折セルモ、今尙ホ垂涎措ク能ハサルハ獨逸ナリ、其調査ニヨレハ、小亞細亞ハ最モ耕作地ニ富ミ、若シ開墾及ビ改良ノ道

ヲ盡サハ、シリア、アナトリア、メソポタミヤノ大地ヨリ產出スル穀物(主トシテ小麥)ハ、全露西亞ノ產額ヨリモ大ナルベシ。又ケルクーリ地方ヨリ產出スヘキ石油ハ、之ニ相當ノ資本ヲ投セハ今日ノバクーニ十倍ノ產出ヲ見ルベシ。且ツ夫レ石炭ハ到ル所ニ豐富ニシテ、棉花ニ適スルノ地ハ極メテ廣大ナルヲ以テ、之ヲ植付タレハ數年ナラスシテ獨逸ハ全然米國棉花ノ輸入ヲ仰ク必要ヲ見サルニ至ル可シト。吾人ハ遽カニ此ノ說ヲ信スル能ハサレトモ、獨逸カ其本國ヨリ程遠カラヌ地ニ穀物、石油、棉花、石炭等國民ノ食料、工業上ノ原料ノ安全ナル供給ヲ得テ、以テ彼ノ世界ノ三大國ノ驥尾ニ附シテ能ク其經濟的獨立ヲ將來ニ維持シ得ルノ望ハ、小亞細亞ニ據ルノ外又他ニ良策無カルベキハ、吾人ト雖モ更ニ疑ヲ插マサル所也。サレハ獨逸皇帝ハ夙ニ此地ニ注目シテ怠ラス、先ツ第一ニ土耳其朝廷ノ歡心ヲ得ルニ努メ、嘗テ希臘戰爭中、獨逸ハ公然土耳其ニ好意ヲ表シ、近ク一八九九年聖地訪問ヲ名トシテ車駕親シクオスマン帝ヲ見舞ヘリ。斯クテ土耳其朝廷上下共ニ漸ク獨逸ニ親ムノ色アルヲ見ルヤ、忽チ假面ヲ脱シテバグダッド鐵道敷設權ヲ強求スルニ至レリ。現今獨逸ニ取ツテ事端多キ東洋ニ出ルノ最捷路(同時ニ最安全路)ハ、伯林ヨリドナウ

ヲ沿フテ澳大利ニ出テ、セルヴィア、土耳其ヲ經テ、小亞細亞ニ渡リ、其ノ中原ヲ横貫シテ波斯灣頭ニ出ルノ一大鐵道ヲ敷設スルニ如クモ、無シ此鐵道ニシテ一度完成セハ、獨逸ハ英吉利、佛蘭西、或ハ露西亞ヨリモ速カニ大兵ヲ東洋ニ巡遣シ得可ク、而モ是等ノ大兵ハ、英吉利海峽、ジブラルタル、地中海、マルタ、蘇士運河等強國若クハ強國領ヲ強過スルノ必要ト危險トヲ伴フ無クシテ、澳大利、セルヴィア、土耳其ノ如キ、比較的強制通過ニ容易ナル安全路ヲ取り得ルノ一大便益アルベシ。勿論此鐵道ノ敷設ニ就テ一大障害ハ澳大利ノ承諾ヲ得ル點ニアレトモ、之レヲ獨逸カ佛蘭西ノボルドー、ニーム連絡運河、露西亞ノ黑海バルチック海連絡運河ノ計畫ニ爲子テ、エールベ、ツリエスト連絡運河ニヨリ、獨逸ニ對スル英吉利ノ地理上ノ勢力(少クトモ英獨開戰ノ場合ニ於ケル英吉利海峽竝ニジブラルタル要塞ノ英吉利ニ對スル價值)ヲ減殺セムトノ計畫ニ比スレハ、澳大利ノ贊同ヲ得ルコト遙カニ容易ナル可シ。萬一此鐵道ニシテ成功セムニハ、是レ東洋ニ於ケル獨逸ノ兵力ノ上ニ一大新勢力ヲ加フルモノナルノミナラス、更ニ獨逸ハ茲ニ近ク産業上ノ一大寶庫ヲ得テ、穀物、石油、ノ供給ニ於テ露米ニ屈スルノ要無ク、棉花ノ輸入ニ於テ米國ニ依頼スルノ危險

無キヲ得テ、其國經濟力ノ上ニ一大新勢力ヲ加フルニ至ル無シトモ保シ難シ。サレハ列國モ夙ニ獨逸ノ此ノ舉ニ慊焉タラサルヲ得ス。就中英吉利ハ其波斯灣ノ海權ヲ侵害セラル、ヨリ、露西亞ハ其對中央亞細亞政策ヲ破壞セラル、ヨリ、相呼應シテ之ヲ妨ケ、佛蘭西モ亦之ニ與スルニ至リシカハ、折角ノ獨逸ノ計畫モ今ヤ十全ノ望無キモノトナレルナリ。

要之スルニ、近時獨逸ノ外交ノ孤立ナルト、其野心ノ餘リニ露骨ナルトニヨリ、盛ンニ列國ノ猜疑ヲ招キ、反對ヲ被リ、比較的獲得ニ容易ニシテ且ツ前途有望ナル南米竝ニ小亞細亞ニ對スル畫策モ容易ニ成功ヲ見難キノ狀アリ。蓋シ獨逸ニシテ此上進テ其畫策ノ遂行ヲ計ラムト欲セハ、勢ヒ南米ニ於テ米國ト衝突セサルベカラス、小亞細亞ニ於テ英露ト戰端ヲ開カサルベカラス。サレト獨逸人ノ穎敏ナル、必勝ノ見込無クシテ妄リニ劍戟ヲ弄スルモノニ非ス。干戈ニ訴ヘテ迄モ其計畫ノ遂行ヲ計ルハ其好ム所ニ非サレハナリ。於是乎、獨逸ハ暫ラク其第二策ヲ包藏シテ、劍ニ血ラス、砲ヲ備ヘスシテ、靜カニ其世界政策ヲ遂行シ得可キ新計畫ヲ案出スルニ至レリ。前掲第三策ナルモノ即チ是レナリ。

(九)

獨逸カ新ニ第三策ヲ立テ、之レカ遂行ヲ計ルニ當リ、先ツ第一ニ其犠牲ニ供セラレムトスルモノハ、實ニ其隣國和蘭ナリトス。是レ蓋シ獨逸ニシテ和蘭ヲ領有セムニハ、一舉ニ二個ノ大ナル目的ヲ達シ得可キヲ以テナリ。二個ノ大ナル目的トハ何ソ、曰ク

第一、和蘭本國ヲ領有スルニ於テ、獨逸ハ其歐洲ニ於ケル經濟上、政治上、軍事上ノ利益ト勢力トヲ増加シ得可キコト。

第二、同時ニ和蘭殖民地ヲ領有スルニ於テ、獨逸ハ其世界ニ於ケル經濟上、政治上、軍事上ノ利益ト勢力ヲ増加シ得可キコト。

是レナリ。

今ヤ和蘭ノ繁榮ハ早クモ十八世紀ノ舊夢ト化シ去テ、今日ニテハ僅カニ面積一萬二千六百五十方哩(日本ノ十二分ノ一)、人口五百五十萬(日本ノ八分ノ一弱)ヲ有スル一個中立ノ小弱國タルニ過サレトモ、其地元來白耳義ト相竝テ歐洲大陸ノ要部ヲ占メ、歐洲大陸ノ大動脈トモ稱セラル、ライシ河口ヲ擁シ、ロツテルダム、アムス

テルダム等數多ノ良港ニ富ムヨリ、中繼貿易甚タ旺ンニシテ、一九〇三年度ニ於ケル貿易總額ハ實ニ參拾五億貳千四百拾六萬圓ニ上リ、人口一人割ノ貿易額六百四拾八圓餘ニシテ世界中第一位ニ居ルモノナリ。且夫レ和蘭ハ今尙ホ世界有數ノ殖民母國ニシテ、東印度、西印度ニ亙テ、面積七十八萬二千八百六十三方哩(和蘭本國ノ約六十五倍)、人口三千六百十二萬餘(和蘭本國ノ約七倍)ノ廣大肥沃ニシテ前途發達ノ見込甚タ多キ一大殖民地ヲ保有シ居ルモノナリ。今其内容ヲ示セハ左ノ如シ。

和蘭殖民地表

面積

人口

全殖民地

七八二、八六三、方哩

三六、一二七、千人

東印度領

七三六、四〇〇、

三六、〇〇〇、(一九〇〇年)

Java & Madura

五〇、五五四、

二八、七四七、(同)

Sumatra

一六一、六一二、

三、一六八、(同)

Rian-Lingga Archipelago

一六、三〇一、

八六、(同)

Banca

四、四四六、

一〇六、(同)

Biliton

一、八六三、

四三、(同)

Borneo, West Coast

五五、八三五、

四一三、(同)

Borneo, South & East Districts

一五六、九一二、

七一七、(同)

Island of Celebes

七一、四七〇、

八八四、(同)

Molucca Islands

四三、八六四、

四一〇、(同)

Timor Archipelago

一七、六九八、

一一九、(同)

Bali & Lombok

四、〇六五、

一、〇四二、(同)

New Guinea to 141° E. Long

一五一、七八九、

二〇〇、

西印度領

四六、四六三、

一二七、

Surinam (Dutch Guiana)

四六、〇六〇、

七四、(一九〇三年)

Curacao

四〇三、

五三、(一九〇二年)

斯クテ和蘭ハ其本國已ニ天下形勝ノ地ヲ占ムルカ上ニ、前途多望ナル許多ノ好殖民地ヲ保有スルモノナレハ、各國共ニ之ニ垂涎スルコト歲アリ。就中獨逸ヲ以テ最モ甚シト稱ス。之レ蓋シ十分ノ理由アル所ニシテ、獨逸ニシテ、遂ニ和蘭ノ地ヲ其支配ノ下ニ置ク能ハサラムカ、獨逸ハ到底政治上、軍事上、將タ經濟上、歐洲ニ覇ヲ稱スル能ハサルモノナレハナリ。

今其理由ヲ説明セムニ、元ト獨逸ノ地タル、其面積ノ上ヨリ云ヘハ佛蘭西ニモ優ルモノナレトモ、其地元來北歐ニ僻在シテ海岸線ニ乏ク、良商港少ク、良軍港ヲ缺キ

北海ニ面セル Wilhelmshaven アリテ多年巨額ノ資金ヲ投シタレトモ港面狹小ニ過キテ十分ノ用ヲ爲サスバルチツク海岸九百キロメートルノ間ニハ Koenigsberg, Dantzig アレトモ氷結ノ恐レアリ又 Kiel アリテ優ニ獨逸全艦隊ヲ容ル、ニ足ルノ大軍港ナレトモ、一朝英吉利海峽又ハ北海ニ事アラムニハ、獨逸軍艦ハ多大ノ時間ヲ要シ而カモ時ニ閉塞ノ憂無キヲ保シ難キ Kaiser Wilhelm Kanal 長六十三哩 水深三十呎ヲ通過セサルベカラサルノ不便アルノミナラス、Dreadnaught 形ノ戰艦出テムニハ到底通過スル能ハサル可シ。サレハ獨逸ニシテ和蘭ノ海岸ニ第二ノ Kiel ヲ有スル、至ラサル限リハ、獨逸ハ如何ニ其海軍ヲ擴張スルモ、未タ遽ニ北海竝ニ英吉利海峽ニ於ケル英吉利海軍ノ鼎ノ輕重ヲ問フ能ハサルモノナリ。

次ニ單ニ經濟上ヨリ考フルモ、Rhein ハ實ニ獨逸ノ生命ナリト云ハサルベカラス。蓋シ Rhein ハ其支流 Ruhr, Mosel, Saar, Main ト共ニ獨逸工業ノ一大中心ヲ橫流スルモノニシテ、Dortmund, Gelsenkirchen, Ruhrort, Barmen, Elberfeld, Essen, Bochum, Remscheid, Solingen, Gladbach, Duisburg, Krefeld, Düsseldorf, Köln, Aachen, Frankfurt a/m, Offenburg, Reutlingen, Kaiserslautern, Saarbrücken, Mannheim, Würzburg, Karlsruhe, Stuttgart Strassburg, Mülhausen 等ノ

大小數十ノ工業都府ハ皆是等ノ區域ニ位スルヲ以テ、獨逸經濟界ノ重心ノ此地方ニ存スルハ疑ヲ容レサル所ニシテ、現ニ一九〇二年 Disseldorf 博覽會ノ成績ニ徴スルニ、單ニ所謂「ライン地方」ト稱セラル、普魯西ノ二洲 Rheinland ト Westfalen トヲ以テスルモ、其面積漸ク全普魯西 Preussen ノ一割五分ニ當ルニ過サルニ、全普魯西ノ石炭消費額ノ七割一分、生鐵產出額ノ八割一分、鋼鐵產出額ノ八割六分、紡績高ノ八割三分ヲ占メ、更ニ獨逸全國ニ對シテ云フ時ハ、人口千六百萬人ニシテ全獨逸人口ノ二割八分、職工ハ二百五十萬人ニシテ二割七分、石炭、麥酒、化學藥品ハ五割、鐵ハ八割三分、葡萄酒ハ九割ヲ出スカ如キ勢ナレハ、獨逸ノ工業ノ中心ハ北ニザクセン南ニライン地方ト別ルレト、製造工業ニ於テハライン地方ハ優ニ獨逸第一ノ中心タル可シ。而シテ此ノ如キ獨逸第一ノ製造工業ノ中心ヨリ輸出スル一切ノ製造品、之ニ輸入スル一切ノ原料品食料品ハ、一ニラインノ水路ヲ利用スルモノニシテ、現ニ獨逸ト和蘭トノ國境 Emmerich ニ於ケルライン上下ノ貨物統計(筏ヲ除ク)ヲ見ルニ左ノ如キモノアリ。

一九〇三年

一〇、〇二七、九〇〇、

二、七二二、六〇〇、

依是觀之、今日獨逸工業ノ中心タルライン地方ノ輸出入ハ主トシテライン川ニ
ヨリ、而モ其之ニヨル高ハ年々巨額ノ増加ヲ示スヲ知ル可シ。且夫レ獨逸ノ輸出貿
易ハ主トシテ海外貿易 *Over-sea trade* ニシテ、一八九八年獨逸海軍省ノ調査報告ニヨ
レハ、獨逸ノ外國貿易ノ五分ノ三乃至三分ノ二ハ海外貿易ナルコトヲ證セリ。殊ニ
一八九八年以來獨逸ノ海外貿易ハ五割方増加セシカハ、現今ハ恐ク貿易全額ノ四
分ノ三ニ達シ居ルナラム。斯クテ獨逸ノ外國貿易ハ主トシテ海外貿易ニシテ、獨逸
ノ海外貿易ハ主トシテ、ラインヲ通シテ營ル。サレハラインハ獨逸經濟界ノ大動脈
トモ稱スヘキモノナルニ、其大動脈ニ對スル心臟トモ稱スヘキライン河口ヲ扼ス
ルモノハ、獨逸ノ港灣ニ非スシテ實ニ和蘭ノロッテルダム *Rotterdam* ナルナリ。サレ
ハ近年獨逸商工業ノ一大發展ニ伴フテ發達シ來タリシモノハ、北ノ方ハンブルグ
Hamburg ヲ除クノ外、獨逸ノ港灣ニ非スシテ實ニ外國ノ港灣タルロッテルダム竝ニ
之ニ接近セルアントワープ *Antwerp* ナルハ不思議ノ現象ニ非ラサルナリ。之ヲ統計
ニ徴スルニアントワープノ輸出入貨物ハ五十年前總計三十萬噸ニ過キサリシニ、

二十年前ニハ二百萬噸ニ上リ、現今ハ優ニ一千萬噸ニ達ス。ロツテルダムモ亦略ホ同様ノ過去ヲ有セシカ、現今ハ優ニ八百萬噸ニ上レリ。之ヲ以テ現今已ニ是等兩港ノ出入船舶噸數ヲ合算スル時ハハンブルグ Hamburg ニ二倍スルノミナラス、昨今ハンブルグヨリ是等兩港ヲ經由シテ輸出セラル、貨物著シク増加ノ趨勢ヲ現シ來リタレハ、ハンブルグハ實際ノ獨逸ノ商港トシテ第三位ニ下ルモ近キ將來ナルベシト推斷スルモノアルニ至レリ。勢ヒ斯ノ如クナルニ於テハ、獨逸ハ折角其商工業ノ發達ヲ努ムルモ、其輸出ニ際シ、將又其輸入ニ際シ巨額ノ利益ヲ和蘭ニ吸收セラル、モノト謂フ可シ。是レ寔ニ新興ノ野心勃勃々タル獨逸上下ノ永ク耐ユル所ニ非ル可ク。獨逸近年ノ政治學者トシテ有名ナル Treitschke カ其著 "Politik" 中ニ於テ絶呼シテ曰ク、「ラインハ百川ノ王ナリ、ラインハ獨逸ノ富庫ナリ、ラインノ一半、其最も重要ナル部分ヲ外國ノ手ニ委シタルハ吾人ノ最大過失ナリ。如何ニモシテ之レカ回復ヲ計ルハ吾人ノ一大責務ニ非シテ何ソ。サレハ吾人ハ單ニ和蘭ト政治的同盟ヲ結フノ要ハ無ケレト、新ニ和蘭ト經濟的同盟ヲ結フノ要ハ絶對ナル可シ。假令ヘ極メテ寛容ナル比喻ヲ以テスルモ、吾人ハ尙ホ且ツ和蘭ヲシテ獨逸關稅同盟ノ

一ニ加入セシムルハ、吾人カ吾人日常ノ「パン」ヲ求ムルヨリモ切要ナリト言ハムト
ス「下」之ヲ以テ獨逸ノ和蘭ヲ覬覦スルコト、今日ニ始リタル譯ニハアラサレトモ、其
第一策ニ失敗シ、第二策ヲ斷行シ難キノ事情アル現勢ノ下ニ於テ、特ニ第三策ヲ奉
シテ特ニ此方面ニ其全力ヲ注クモノ、如ク之ニ對スル種々ノ政策ハ計畫セラレ、
幾多ノ著書(Stubmann, von Halle, Anton)ノ著書ノ如キハ出版セラレヌ。サレトモ今ヤ和
蘭ノ國タル、永久中立ヲ守テ其領土ヲ保全サル可キハ、列國會議ニヨリテ約定セラ
レ居ル所ナレハ、若シ獨逸ニシテ武力ヲ以テ和蘭ニ臨マハ、列國モ亦武力ヲ以テ之
ニ反對スヘキヤ必セリ。サレハ獨逸ノ明敏ナル、初ヨリ之ヲ干戈ニ訴フルノ危險ト
費用トヲ避ケテ偏ニ外交手段ヲ以テ平和ニ之ヲ領有セムトノ志ヲ懷クモノナル
カ、夫ニハ獨逸ニ取ツテ極メテ好都合ナル歷史的敎訓アルナリ。何ソヤ、曰ク關稅同
盟ノ歷史ヲ繰返スコト是レナリ。元ト獨逸ハ聯邦組織ニヨリ成立シ、發達ヲ遂ケタ
ルモノナレトモ、聯邦組織ハ其實關稅同盟ニ胚胎シタルモノナレハ、此ノ歷史上ノ
遺訓ニ從テ、先ツ和蘭ニ向テ獨逸ト關稅同盟スルノ利ヲ說キ、斯クテ經濟的同盟成
立セムニハ、更ニ一步ヲ進メテ政治的同盟ノ利ヲ說キ、以テ其併吞ノ實ヲ擧クルナ

リ。是ニ就テモ又獨逸ニ取ツテ極メテ好都合ナルハ其憲法組織ナリ。今假リニ佛蘭西ニシテ和蘭ヲ併吞セムト欲セハ、和蘭ヲ其領土ノ一部トシ、其ノ國家トシテノ存在ヲ失ハシメサルベカラス。而モ此ノ如キ舉ニ出テムニハ前ニモ言ヘルカ如ク列國ノ強硬ナル反對ヲ免ル、能ハサル可シ。然ルニ獨逸ハ敢テ之ヲ併吞セムトハ云ハス、バイエルン、ヴキルテンベルヒ、ザクセン同様ニ單ニ獨逸聯邦ノ一ニ加入ヲ勸ムルモノナレハ、和蘭國ハ依然トシテ存在シ、和蘭女皇ハ依然トシテ君臨シ、其内政ニ就テハ毫モ干涉ヲ受ルコト無ク、唯單ニ海軍ト外交トニ於テ獨逸聯邦議會ノ支配ヲ受クルノミナリ。斯クテ獨逸ハ別ニ列國會議ノ精神ニ反スルコトナク、從テ列國政府ノ強硬ナル反對ヲ避ケ得テ以テ、勞セスシテ靜カニ一萬二千餘方哩ノ和蘭本國ト、之ニ附隨シテ七十八萬二千餘方哩ノ東西兩印度ノ好殖民地トヲ其掌中ニ收ムルヲ得可シ。サレハ獨逸ノ學者政治家ハ手ヲ盡シ、口ヲ盡シ、右ヨリ脅シ、左ヨリ賺シテ以テ、和蘭ヲ其關稅同盟ニ加入セシメムト計ルノ狀ハ、近時歐洲ニ於ケル政治上ノ一大喜劇ニシテ又一大悲劇トモ云フ可シ。今其一二ヲ舉ケムニ、一九〇一年春、獨逸ハ唯單ニアムステルダム竝ニロツテルダムヲ苦ムルノ目的ヲ以テ、ハンノ

バーノ地、エムズ Ems ノ河口、和蘭ト界スル北海ノ一小港エムデン Emden ニ二千二百萬マルクノ巨萬ノ資ヲ投シテ宏大ナル築港ヲ企テ、其外港ノ一部ヲ舉ケテ自由港トナシタル上ニ、更ニライン地方ノ輸出入貿易ヲ此方ニ引キ付ケテ以テロツテルダムノ繁榮ヲエムデンニ移サムトテ、一八九二年ヨリ一九〇一年ニ互テ、八千萬「マルク」ノ巨資ヲ投シテ、ドルトムンド Dortmund トエムス間ニ延長百六十哩ノ一大運河ノ開通ヲ企テタリ。元トドルトムンドノ地タル、前ニモ論セルカ如ク獨逸最大ノ石炭竝ニ鐵ノ產出地ナレハ、一九〇一年運河完成ノ曉、出入ノ貨物ノ此運河ニ由ルモノ甚タ多キヲ加ヘタリ。即チ

ドルトムンド、エムス運河通過貨物表

	一八九九年	一九〇三年
鐵 礦	五二、 ^噸	八五、六二七、 ^噸
穀 物	二八、五二二、	一一九、四九七、
		石炭竝ニコークス 二〇、二五四、 一六四、四七八、
		鐵 器 六、三七二、 ^噸 四〇、六三〇、 ^噸

斯クテ一面此ノ如キ威嚇手段ヲ弄シツ、他面ニ於テ獨逸外務省ノ半官報ト稱セラル、Grenzboten(一九〇一年七八月頃)ヲシテ左記ノ論議ヲナサシム。曰ク「和蘭ノ富源ハライン川口ヲ扼スルロツテルダムニアル可シ。而シテロツテルダムハ主トシ

テ通過貿易ヲ以テ榮ヘ、其通過貿易ハ主トシテ獨逸ニ對スル通過貿易ニ依テ維持セラル。然ルニ今ヤ獨逸ハ Dortmund-Ems Kanal ニヨリ新ニラインノ出口ヲエムデンニ設クルヲ得可シ。元トエムデンノ地タル和蘭ニ界シテ北海ニ向フノ良港ナリ。今日迄之ヲ放置シテ顧サリシモ、一旦之ニ巨萬ノ資ヲ投シ、已ニ之レカ一部ヲ劃シテ自由港トナサンニハ、ロツテルダムノ繁榮ハ忽チニシテ之ニ奪フヲ得可シ。サレハ廣ク和蘭ノ脊後ヲ擁シタル獨逸ハ、和蘭ノ貿易ヲ破壞シ、其繁榮ノ根源ヲ絶チテ之ヲ膝下ニ屈セシメムハ、極メテ容易ノ業ニシテ、和蘭ハ今日己ニ獨逸ノ經濟的保護國タルノ觀アルモノト謂フ可シ。勢ヒ此ノ如クナルヲ以テ、和蘭タルモノ、此際靜カニ其將來ノ利害ヲ打算シテ獨逸ニ從ヒ、之ト經濟的同盟ヲ締結スル寔ニ機宜ヲ得タルモノトイフベシ。且ツ夫レ和蘭ハ政治上ニ於テモ常ニ列國ノ威壓ヲ受ケ、其中立保障ノ如キハ一片ノ空文ノミ、一旦緩急アラハ何等ノ用ヲ爲スモノニアラス。曩キニ西班牙ハ米國ノ爲メニ侵サレ、葡萄牙ハ事實英吉利ノ被保護國トナリヌ。和蘭ニシテ其未來ニ注意スル所無クムハ、西、葡ノ轍ヲ踏サラムト欲スルモ夫レ危ヒ哉。今ヤ獨逸ノ海軍ハ漸ク英吉利ノ海軍ニ比敵ス、斯クテ海ニ陸ニ同一勢力ヲ有スル

大國タル以上ハ、敵(英國)ニ結フヘキカ、抑又味方ニ組スヘキカハ、三尺ノ童子ト雖モ判斷ニ苦マサル所ナルベシ。サレハ和蘭ハ又政治上ニ於テモ獨逸ト同盟スルノ安全ナルヲ覺ユルモノナル可シト。Schmollerモ亦曰ク「吾人ハ和蘭ニ經濟的同盟ヲ強ユルモノニ非ス。サレトモ和蘭ニシテ來テ我ニ加盟スルノ明アラハ、庶幾クハ西班牙ノ後ヲ逐フテ其殖民地ヲ失フノ危險ヲ免ルベシ」ト。此ノ他、和蘭ハ其地位ヲ利用シテ獨逸ノ海軍ヲ助ケ、獨逸ハ其強大ナル陸軍ヲ以テ和蘭ヲ防禦ストノ條件ヲ掲ケテ、兩者ノ同盟ヲ鼓舞獎勵スル新聞雜誌モ亦斟カラサルナリ。

サレトドルトムシンド—エムス運河ハ廿一個ノ水閘ヲ有スル上ニ、運河ノ事トテ水深(ラインノ水深ハ河口ヨリ Cöln 迄十呎、Cöln Mannheim 間七呎乃至八呎)ハラインニ等シキモ水面ハ狹小ニ過キ、ラインハ二日半乃至三日半ニテ全川ヲ航通シ得ルニ、運河ハ五日ノ行程ヲ要スベケレハ、到底ラインノ敵ニ非サルハ勿論、該運河ニシテ其南端ヲラインノ河畔ニ有スルニ至ラサル限リハ、到底ラインノ水利ヲ壓シテロツテルダムノ繁榮ノ一部ヲダニ之ヲエムデンニ奪フカ如キハ夢想ダモ且ツ及ハサル所ナル可シ。サレハ獨逸政府モ其和蘭ニ對スル強迫政策ニ更ニ一步ヲ進メ

テ、將ニ新ニ千二百萬マルクノ資ヲ投シテ延長三十五哩水閘六個ノライン——ドル
トムンド運河ノ開通ノ企アリト傳フノミナラス、曩キニ一九〇五年四月一日以來
エムデンニ於ケル石炭竝ニ「コークス」ノ輸出費用ノ一大輕減ヲ計レリ、斯クテ獨逸
ハ百方策ヲ廻ラシテ以テ和蘭ノ屈服ヲ見スムハ止サルノ決心ヲ示スヨリ、和蘭ニ
於テモ近時其獨逸ト關稅同盟スルノ利ヲ說クモノ漸ク多キヲ加フル至リタルノ
狀アリ。其理由如何トイフニ、元來和蘭ハ頗ル天然ノ生産資料ニ乏シキ國ニシテ、石
炭モ無ク、鐵モ無ク、木材モ無ク、石材モ無キ濕地タルニ、人口ハ甚タ多ク其密度英吉
利ヲモ凌クノ有様ナレハ、外國ノ食物原料ニ依頼スルノ狀ハ遙ニ英吉利ニモ勝ル
ノ狀アリ。然ルニ猶ホ且ツ今日ノ繁榮ヲ維持スル所以ノモノハ一ニ貿易ノ結果ニ
シテ、夫モ自國ノ貿易ト云ハムヨリモ寧ロ獨逸ニ對スル通過貿易ノ結果ナリ、斯ク
テ和蘭立國ノ基ハ一ニ全ク商業ニアレハ、自然ノ結果、商業家ノ政治ヲ左右スルノ
力甚タ強ク、而モ商業者ニ取テ永ク獨逸ノ怨ヲ買ヒ遂ニロツテルダムノ繁榮ヲ失
フノ損害ト、獨逸ト關稅同盟ヲ結テ新ニ六千萬人ノ新顧客ヲ得ルノ利害トヲ比較
計量セムニハ、彼等カ陰ニ陽ニ親獨的輿論ノ喚起ニ努ムルモ不思議ニハアラサル

可シ。是レ最近獨和問題ノ盛ンニ世界ノ注意ヲ喚起スルニ至リタル所以ナリ。

(十)

要之スルニ、獨逸ノ「全獨逸主義」ト「世界主義」トハ、玆ニ最後ニ對和蘭策ニ於テ一致シ、獨逸ハ和蘭本國ヲ領有スルニ於テ其「全獨逸主義」ノ一部ハ成就ス可ク、之ニ伴フテ、和蘭殖民地ヲ併有スルニ於テ其「世界政策」ハ確立スルニ至ルモノナリ。サレハ獨逸ハ如何ニモシテ和蘭合併ノ慾ヲ充サムトスルモノ、如ク、和蘭モ亦漸ク獨逸ニ同盟スルノ利ヲ悟ルモノ、如ク、兩々相俟テ漸ク歐洲ニ於ケル國力ノ平均ヲ亂サムトスルノ形勢アリ。蓋シ獨和兩國ノ合併ニシテ成立セムニハ、佛蘭西ハ永久ニ其歐洲ニ於ケル第一等國ノ地位ヨリ第二等若クハ第三等ノ地位ニ下ル可ク、英吉利ト雖モ從來ノ如ク安シテ力ヲ海外ニ專ニスル能ハサルニ至ルナルベケレハナリ。於是乎、近時英佛ノ政治家ニシテ眼ヲ獨和關係ノ上ニ注クモノ甚タ多ク、方今歐洲政界ノ低氣壓ハ Bosphorus ノ海峽ニ存セスシテ、實ニラインノ河口ニ存ストハ、一般政界觀測者ノ一致スル所ナルカ如シ、サレハ獨逸モ可成風雲ノ襲來ヲ緩和シ、列國ノ注意ヲ強烈ナラサラシメムトノ考ヨリ、漸進主義ヲ以テ對和蘭政策ノ精神トナ

シ、先ツ郵便同盟ヨリ入ツテ鐵道同盟ニ、鐵道同盟ヨリ貨幣同盟ニ、貨幣同盟ヨリ關稅同盟ニ、關稅同盟ヨリ政治的同盟ニ、政治的同盟ヨリ政治的併吞ヲ順序ヲ追フテ、粗ヨリ細ニ、小ヨリ大ニ、易ヨリ難ニ次第ニ其歩武ヲ進メテ以テ最後ノ目的ヲ達セムトスルモノ、如シ

(完)